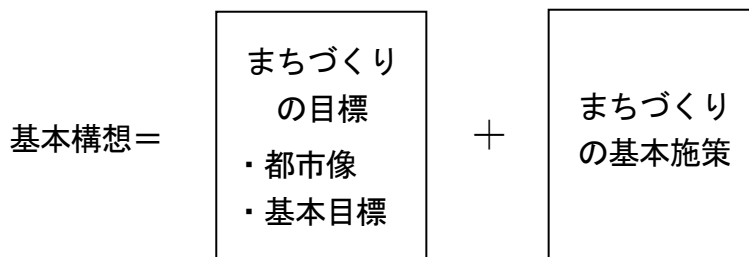


## 議題(3)ア 第三次基本構想策定の共通認識の確認について

## 第三次基本構想策定の共通認識の確認

## 1 基本構想とは

基本構想は、市民と市が一体となって、望ましい地域社会を築き上げていくための指針となるものです。具体的には、将来の東大和を展望したまちづくりの目標と、それを達成するための基本施策などが定められています。



## (参考) 用語の意味

**まちづくりの目標**＝市民と市が、その実現に向けて力を合わせていくための共通の目標となるものです。めざす将来の「都市像」と、その都市像を実現するための「基本目標」などで構成されています。

**都市像**＝理想とする将来のまちの姿を短い言葉で表したものです。第二次基本構想では、『人と自然が調和した生活文化都市 東大和』が都市像となっています。

**基本目標**＝上記の都市像を実現するための基本目標を、第二次基本構想では5つ定めています。

- ・ 豊かな人間性と文化をはぐくむまち
- ・ 健康であたたかい心のかよいあうまち
- ・ 暮らしと産業が調和した活力あるまち
- ・ 環境にやさしく安全で快適なまち
- ・ 相互の理解と協力を支えられるまち

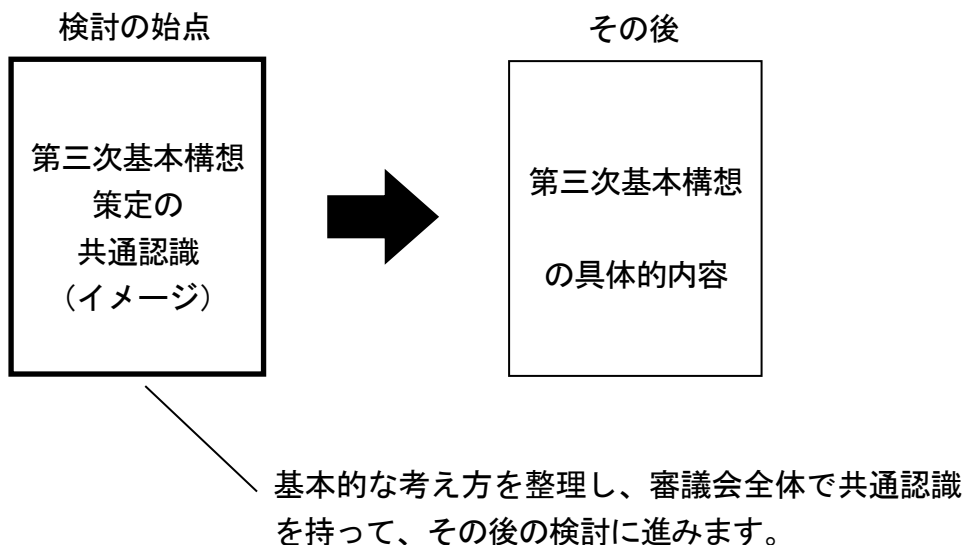
**まちづくりの基本施策**＝「施策」は「策を施す」という意味であり、「取組」と近い言葉です。第二次基本構想のまちづくりの「基本施策」では、めざす都市像を実現するための「基本的な取組」が、上記の基本目標別に記載されています。

## 2 第三次基本構想の検討の進め方

第三次基本構想の検討にあたっては、構想全体で整合性を図る必要があるため、検討の始点として、審議会全体で「第三次基本構想策定の共通認識」を整理します。

この「第三次基本構想策定の共通認識」は、今後の検討を進めていく上での基本的な考え方をまとめたものであり、イメージです。

従って、ここで整理した言葉が、そのまま第三次基本構想に記載されるものではありませんので、詳細な一言一句までの検討は不要です。



## 3 「第三次基本構想策定の共通認識」の検討

### (1) 課題の把握

「第三次基本構想策定の共通認識」を整理するにあたっては、市のまちづくりを取り巻く課題について、20年先を見据えた分析が必要となります。

株式会社富士通総研が実施した基礎調査等の結果によれば、多くの分野において、少子高齢化と人口減少がもたらすマイナスの影響を最小限に食い止めることが課題とされています。少子高齢化と人口減少は、産業・経済だけにとどまらず、地域コミュニティや自治体経営にも影響を及ぼすことが指摘されており、地域の社会・経済に大きな影響を与える見込みです。

### (2) 市民意識の把握

市民の皆さんが、まちづくりについてどのような認識を持っているかを把握するため、市民意識調査と中学生アンケートを実施しました。

その結果によれば、現在の東大和市のイメージとして「自然が豊かなまち」「住みやすいまち」の順位が高く、今後の望ましい東大和市のイメージとして「住みやすいまち」の順位が高くなっています。

豊かな自然に囲まれた住環境に対する市民の評価は高く、この住環境を今後も守ることが求められているといえます。

#### 4 第三次基本構想策定の共通認識

以上の結果を踏まえ、第三次基本構想策定の共通認識を、次のとおり整理します。  
この共通認識に基づき、第三次基本構想全体の検討を進めていくこととします。

(共通認識)

東大和市は、都心部まで電車で通勤・通学できる圏内にあり、利便性が高いと同時に、多摩湖、狭山丘陵をはじめとする緑豊かな自然環境に恵まれた都心のベッドタウンである。

今後20年間も、この地に住む人々が協力して豊かな自然を守り、これまで以上に住みやすいまちをめざすとともに、少子高齢化と人口減少が進展する中であっても、活力あるまち、持続可能なまちをめざす。

審議会全体で共通認識を持つためのイメージですので、  
詳細な一言一句までの検討は不要です。